

# 図書館報

第118号  
平成17年 1月11日  
大分工業高等専門学校  
図書館  
大分市牧1666番地  
TEL 097 552 6084  
FAX 097 552 6786



ロッキーマウンテン国立公園

## 〈も く じ〉

題 字「図書館報」.....	(校 長 沖 憲 典 筆) .....	1
扉写真「ロッキーマウンテン国立公園」.....	(機 械 工 学 科 菊 川 裕 規) .....	1
シリーズ・私と読書「コロラド州立大学での留学体験」	機 械 工 学 科 菊 川 裕 規 .....	2
組写真「コロラドの風景」.....	(機 械 工 学 科 菊 川 裕 規) .....	4
「おおいた文学散歩(3)」.....	国 語 科 山 田 繁 伸 .....	5
私の推薦する図書「徳川家康」.....	機 械 工 学 科 福 永 圭 悟 .....	6
私の推薦する図書「ゲド戦記」.....	制 御 情 報 工 学 科 鶴 浩 二 .....	6
私のすすめたい本「冬のソナタ」.....	制 御 情 報 工 学 科 5 年 古 賀 ひとみ .....	7
平成16年度(後期)学生図書委員会名簿 .....		7
私のすすめたい本「夏の王」ファンタジーな世界へ ...	土 木 工 学 科 5 年 野 村 勇 吉 .....	8
平成16年度 校内読書感想文コンクール入選者.....		8
編集後記 .....	図 書 館 長 補 佐 大 木 正 明 .....	8

シリーズ・私と読書(53)

## コロラド州立大学での留学体験

機械工学科 菊川 裕規

### 1. はじめに

平成15年10月から平成16年9月までの約1年間、文部科学省長期在外研究員としてアメリカ合衆国コロラド州立大学の風工学・流体研究所に留学しました。現地でお世話になったMeroney教授をはじめBienkiewicz教授の下で研究する機会が得られました。ここでは図書館や読書に関する話題を盛り込みながらアメリカでの留学体験を紹介します。

### 2. コロラド州フォートコリンズ市について

コロラド州はアメリカ合衆国の中西部に位置し、西はロッキー山脈の山並みが広がり、東は大平原が広がるという風光明媚な所です。コロラド州立大学のあるフォートコリンズ市は州都デンバーから北へ約100kmのロッキー山脈の麓に位置します。標高は約1600mありますが、気候は概して穏やかで暮らしやすい所です。コロラド州は1年365日のうち300日は晴天だと言われるほどです。ただし、夕立のような短時間の雨はしばしばありましたし、朝晩の寒暖の差は大きく感じました。冬は気温が-20 近い日や雪が降る日もありましたが、建物の中は暖房設備が充実していますので寒さを感じることはありません。夏は日本に比べて湿度が低いので、汗をかくことはありませんが、紫外線が強いので日焼け止めとサングラスは必需品だと感じました。夏の日差しは暑いというよりも痛いと感じた方が的確です。

フォートコリンズ市は大学を中心とした人口約12万人の田舎町です。治安はとても良く、銃による事件やニュースを耳にしたことはありません。あるアンケート調査によると、アメリカ人が住みたい町としてナンバー1になったこともあるそうです。

### 3. コロラド州立大学について

コロラド州立大学は1876年設立の歴史ある大学です。設立当初は農学部のみ的小規模な単科大学でしたが、現在では8つの学部と55の学科を有する総合大学です。教職員の数は7,000人に上り、学生数は約24,000人、95の国と地域から留学生が来ています。メインキャンパスは市中心部に位置し、約1マイル

四方の広大な敷地を有します。他にも3つの広大なキャンパスがあります。山の麓のフットヒルズキャンパスには工学研究センターがあり、研究所の実験室があります。渡航してまもなく自宅アパートから研究所まで自転車で通っていたところ、なんと交通事故に遭ってしまいました。生まれて初めてアメリカで救急車のお世話になり、ERに連れて行かれるというハプニングもありました。おかげでアメリカの医療現場や保険の手続きなど貴重な体験をすることになりました。

授業は1月から5月中旬までの春学期と8月中旬から12月までの秋学期があり、その間約3ヶ月の夏休みがあります。滞在中に多くの経験をしたいと思い、春学期を通して大学の授業に参加しました。当然、学生はみな真剣に授業に取り組んでいましたし、授業の後も教官室の前に並んで熱心に質問していた姿が印象的でした。

### 4. 大学図書館について

コロラド州立大学の図書館は大学に貢献した教授の名前にちなんでMorgan Libraryと呼ばれています。建物は地上4階、地下1階の5層構造です。1階には一般書籍・専門書等が置かれており、貸出・返却カウンターその他、書籍・文献検索専用のインフォメーションセンターがあります。ここ以外にも自分で検索したい人のために、館内至るところにパソコン端末が置かれ、どこでも書籍・文献検索ができます。また、カフェテリアコーナーがあり、軽食やコーヒーなどでくつろぎながら、ゆっくり図書館内で過ごすことができます。2階には学術雑誌コーナーがあり文献複写ができます。コピーはもちろんのことスキャナーで文献をPDFファイルに変換し、電子ファイルとして複写することもできます。3階と4階には歴史的価値のある貴重な文献が保管されており博物館のようになっています。地下には専門書・学術文献・学位論文等が保管されています。各階には広大な自習エリアが設けてあり、いつも多くの学生が勉強している姿を目にしました。

平日の開館時間は朝7時から深夜12時までですから、夜遅くまで図書館で勉強することができます。1度に貸出利用できる書籍の冊数は学部生で100冊まで、大学院生および教職員は200冊までとなっています。貸出期間は学部生で1ヶ月、大学院生および教職員では6ヶ月です。書籍を借りたことを忘れてしまうのではないかと心配になりますが、インターネットを通じて貸出状況をいつでも自分で確認することができます。また、インターネット利用に関してはかなり先進的で、学籍番号とパスワードを入力してログインすることで、書籍の貸出予約や注文、文献複写等の依頼ができます。コロラド州立大学の図書館にない書籍は全国の図書館より取寄せることができ、無料で直接自宅へ郵送してもらうこともできます。文献複写についてはPDFファイルに変換してEメールで送ってもらうこともできます。

#### 5. 本とのつきあい

日本を出発するとき研究に必要な専門書を中心に、ゆうパック(35cm×45cm×35cm)に4箱ほど書籍で一杯にして国際郵便で郵送しました。現地で手に入る書籍は当然全て洋書ですから、日本からかなりの数の書籍を郵送したのですが、結果的に必要な書籍は現地で購入することでこと足りました。むしろ、日本にはない珍しい本ばかりで、ついつい書籍を衝動買いしてしまいました。帰国する際には、もはや郵便では送ることができず、海外引越しを利用して大型ダンボール(50cm×50cm×40cm)に7箱ほど書籍で一杯にして帰国しました。

コロラド滞在中は街角の本屋さんによく足を運んだものです。本屋さんには一角にはコーヒーショップがあり、コーヒーを飲みながらゆっくりくつろぐことができます。また、いわゆる立ち読み用の椅子が至るところに設置されており、気兼ねなく時間を気にせず立ち読みができるのです。大学の中の書店では不要となった教科書を買取り、それを古本として販売しています。教科書のような専門書は概して高額なのですが、古本では半額程度の値段で購入することができます。売る方にも買う方にも合理的なシステムだと感じました。

滞在中に気に入った本を一つだけ紹介します。

ダ・ヴィンチ・コード 上・下(角川書店)

ダン・ブラウン著、越前敏弥訳

世界的にベストセラーとなり、日本でも訳本が出版されています。この本はフィクションなのですが、著者の詳細な調査に基づいて歴史の謎をひも解き、西洋史の解釈に新しい光を当てたという話題作です。

#### 6. おわりに

約1年間の在外研究期間は長いようですが、終わってみればあっという間でした。本来の研究以外にもアメリカでの生活を通して文化の違いや多様な考え方に接することができ、数多くの貴重な体験をすることができました。今後、教育および研究に還元していきたいと思います。最後になりましたがこのように機会を与えてくださいました関係各位にこの場をお借りして感謝の意を表します。



コロラド州立大学図書館



コロラド州立大学正門



フォートコリンズ市街地



コロラド州立大学構内



地平線まで延びる道路



コロラド州立大学アパート



ロッキーマウンテン国立公園



フォートコリンズ市中心部



工学研究センター

## おおいた文学散歩(3)

## 国木田独歩「源叔父」を歩く

一般科目(国語) 山田 繁伸

作品は上、中、下に分かれている。(上)は、佐伯に1年ほど住んで東京に戻った青年教師が、佐伯で聞き知った船頭に思いを馳せる場面である。船頭は源叔父という。その(上)に続く(中)と(下)が、青年教師の与り知らないその後の源叔父の身の上話である。源叔父は、愛妻百合を失い、一人息子幸助も失い、もの言わず、船頭として歌も歌わず、世間から忘れられた存在となっていた。ところが、ある日所用で出かけた城下で、母親に捨てられた「紀州」という乞食の少年に出会う。捨てられた事情が次のように書かれている。

母はこの子を連れて家々の門に立てば、もらい物多く、ここの人の慈悲深きは他国にて見ざりしほどなれば、子のために行く末よしやと思いはかりけん、次の年の春、母は子を残していずれにか影を隠したり。

紀州は、優しい佐伯の人々に養われる。とは言え、養育の限度もあり、紀州は野良犬のごとき乞食生活を送る。そのうち人間の心を失ってしまう。佐伯には珍しい雪の降る夜、源叔父は紀州を探し出し、一緒に住もうとする。源叔父は紀州に愛情を注ぐ。

しかし、紀州は源叔父の愛情を受け入れることができない。紀州は人間の心を喪失してしまっているのである。ある時、紀州を思って家に帰ってみると、家内は真っ暗で紀州は家にいなかった。源叔父は紀州を探しに街へ飛び出す。「右は畑、左は堤の上を一行に老松並ぶ真直の道を半ば来たりし時、行く先をゆくものあり」と源叔父は運良く紀州を見つけ出す。この描写の場所は、養賢寺前、佐伯鶴城高校沿いの馬場の松並木であろう。明治20年代にはだいぶ並木が残っていたらしい。

養賢寺から城山の入り口までの約700メートルの道は、歴史と文学の道として「日本の道百選」にも選ばれている。もともとは武家屋敷のあったところである。城山の入り口には、佐伯城三の丸櫓門が遺存している。途中独歩が寄寓していた坂本邸もみることが出来る。明治26年10月17日この坂本永年邸に下宿を移したようである。独歩は、ここから鶴谷学館へ通った。現在の大分信用金庫佐伯支店前に鶴谷学館跡の石碑が建てられている。

独歩がよく登った城山は標高140メートルの小高

い山である。今は道路もよく整備されていて、20分もあれば山頂に着く。山頂には、佐伯城の本丸や二の丸跡の石垣が残っている。また、2基の独歩碑を見ることも出来る。

源叔父が紀州を見つけ出した場面は次のように描かれている。

かれは両手を懐にし、身を前に屈めて歩めり。  
「紀州ならずや。」と呼びかけてその肩に手を掛けつ、  
「独りいずこに行かんとはする。」怒り、はた喜び、  
はた悲しみ、はた限りなき失望をただこの一言に包みしようなり。紀州は源叔父が顔見て驚きしさまもなく、道ゆく人を門に立ちて心なく見やるごときさまにて打ち守りぬ、翁はあきれてしばし言葉なし。  
「寒からずや、早く帰れわが子。」いいつつ紀州の手取りて連れて帰りぬ。

源叔父の愛情は紀州には通じない。紀州の心はあまりに孤独であったためか。孤独も宿らぬ心となっていたのだろうか。源叔父は何とかして紀州と心を通わせようとするがかなわない。

佐伯に葛港というところがある。独歩が四国の三津浜より乗った汽船を降りたところである。近くに港口マンパークという公園がある。その一角に、源叔父が紀州を探し出して紀州の肩に手をやった場面の彫刻が建てられている。独歩が佐伯に来て100年になるのを記念して、佐伯独歩会が平成4年に建てたものである。台座は御影石と六トンの紫雲石で、その上のブロンズ像は大分大学の佐脇健一先生の制作である。

紀州に再び逃げられた源叔父は絶望のあまり縊死してしまう。紀州は、人からそのことを聞かされる。しかし、「かれはただその人の顔を打ちまもりしのみ」で、何ら心を動かそうとしない。作品もそこで終わっている。悲劇としか言いようがないが、格調高い文語文が、源叔父の深い愛情とよく調和している。

原文の引用は、岩波文庫版の『武蔵野』によった。



## 私の推薦する図書

## 徳川家康(全26巻)

山岡 宗八 著

機械工学科 福永圭悟

誰と出会うか、どんな本に出会うかにより人の道は変わると聞いたことがある。読んだのは、楽しい思い出と悲しい思い出が入り混じった20代半ばだった。

小さいころは漫画が好きだった。「トランペットを吹く少年」が線路で汽車に向かってトランペットを吹くシーンは脳裏に焼きついている。その後、新聞連載記事「アンモン貝の不思議」、「野菊の墓」などいろんな本に夢中になった。高校時代は世界文学を良く読んだ。

入社2、3年目の頃だったと思う。仕事には全く力が入らず、ただ漠然と設計業務をこなしていた。会社帰りだったか、福岡の紀伊国屋書店6Fで、この本を手にとった。全26巻。文字も小さい。人の道は重き荷を負って歩むが如し。1、2巻は記憶にない。3巻からは寝食を忘れるとはこの事かと思うほどだった。会社の便所へ持ち込んで読んだ。竹千代(徳川家康幼少時の名前)の悲哀には泣かずにいらなかった。座っている時間も長くなり、和式便所のため足がしびれ、立つ時は大変だった。さらに読み進むと、人の心理描写に感動し始めた。「人は理屈で負けると感情で勝負してくる」、「蔣は駄馬を使いこなし、目的を達成する」など、今でも思いあたる節は多い。どうせ明日は大した仕事もないと勝手に決めつけ、夜半過ぎても読んだ。2か月位で読了した。

数年後には仕事も面白くなり、毎日13時間位は働いた。宮崎県佐土原町出身の上司は、厳しかったが楽しい日々だった。良く飲み連れて行って貰い、カラオケを歌った。海兵学校出身の所長は、私のような駄馬にも燃えさせるような仕事を与えてくれた。もう一度会ってお礼を言いたい。

読んでから20年は過ぎていただろうか。熱い夏の日だった。名古屋の近くの清洲という小さな街を出張帰りに立ち寄った。この地を竹千代と織田信長が駆け回ったかと思うと感無量になった。いい本に出会ったものだと思つづく思った。

思い起こせば、足のしびれを我慢しながら読んでお陰で、仕事の楽しさを覚えたような気がする。20代半ばで人生に迷っていた頃に読んだ「徳川家康」を薦めたい。その時は感涙させ、後年勇気と希望を湧かせてくれる。

## ゲド戦記(影との戦い)

アーシュラ・K・ル=グウィン 著

制御情報工学科 霧 浩二

タイトルをみただけだと、古代ローマ史における英雄の活躍物語かと思われるかも知れません。私もアキレス腱断裂で入院したときに、妻が差し入れてくれた本の中に、このタイトルを見たとき、そう感じました。しかし、内容は架空の世界アースシーを舞台にした魔法使いゲド少年の成長をテーマにした話です。1960年代に出版された本書は、現代ファンタジーの原点ともいわれ、その後の『ハリー・ポッター』などにも影響を与えたと思います。しかし、『ゲド戦記』の持つ世界観の広がり、精神的な深みなどは、類書の中で抜きん出ています。

ゲド少年は、アースシー世界の小さな島に生まれ、魔法の才を見込まれ、魔法学校に入学します。そこで、勉学に励み、優秀な成績を修めましたが、自分の才に自惚れ、力以上の魔法を使ってしまいます。その結果、死の世界から、凶暴な影(死霊)を呼び出し、それから何年も、ゲドはその影に追われ、怯え暮らすこととなりました。しかし、あるとき彼は、意を決し、影と向き合い、対決することを決意します。そして、ゲドは、その影が自分自身の闇の部分であることに気が付きます。戦いの最後には、ゲドとその影は一つとなり…。

思春期には、先走る知性とからだで感じる経験不足の隔たりから、空虚な観念世界に引き寄せられる傾向があります。私も、高校に入学したころに、なんとなく無気力になり、現実社会が、色あせて見えました。口うるさい親、成績と進学のことしか言わない教師、友人との確執。『周りの人が悪い、環境がよくない。』当時、よくそう思っていました。でも、本当にそうだったのでしょか。そこにあるのは、自分の闇の部分と正面から対峙することなく、戦いに敗れた言い訳ではなかつたでしょうかと今思います。

本書の読み方、感じ方は、人それぞれだと思います。しかし、架空世界の中で、手のひらを流れる水の質感や、風に揺れる草のにおいなどを体験させてくれる表現力、破綻のない世界を築く構成力を是非感じてみて下さい。

**私のすすめたい本**

**「冬のソナタ」を読んで**

キム・ウニ/ユン・ウンギョン 著

制御情報工学科 5年 古賀ひとみ

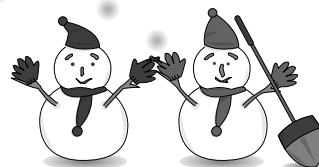
私は、実際ドラマを見てからこの本を読みました。今の韓流ブームに関しては様々な意見が出ると思います。ですが、以前から韓国の映画に興味があった私にとって、このブームはとても嬉しいものでした。アメリカナイズされている日本では、地方ともなると、ハリウッド物メインでしか映画館は動いてくれません。今では映画もドラマも音楽も身近になってきているので、本当に嬉しいばかりです。

さて、この物語のあらすじを簡単に説明しようと思います。舞台は春川(チュンチョン)その春川にある高校生の淡い恋物語です。5人の仲良しグループのいるクラスに、ある日ソウルからチュンサンと言う転校生がやってきました。全く慣れようとしないう彼と仲良くしようと、仲良しグループの中のユジンがチュンサンを強引に引き込み、やがて2人は特別な感情を抱くようになっていきます。他の4人も何とか慣れたころ、春川は冬を迎えました。そんな中、チュンサンは交通事故で亡くなってしまいます。皆は悲しみにくれ、そして時は経ち、場面は現在に移ります。

私はこの物語にあまりにも感情移入してしまったためかえって感想が書けません。思うことがあまり

にも多すぎるのです。ただ、今までに誰かを好きになったことがある人なら、少なくとも楽しめる作品だと思います。人を愛することの重大さ、悲しさ、人が恋することの難しさ、全てが切なくて、全てが悲しくて、自分以外の誰かを自分以上に思いやる気持ちがとても痛いのです。そして誰もが心に傷を抱えて生きていることにも切なさが残ります。たくさんの傷を負うことで人の痛みが分かって、人を本当に愛する事が出来て、でもやっぱり傷つけてしまう。やりきれない恋のジレンマがとても控えめにではありながらも、強い印象を残していく話でした。人は生きている限り、誰かに恋をするものです。何歳になろうと、どんな環境にあろうと、いつかどこかでめぐり逢うやっかいなものです。恋の基本的なところを大切に大切に練り込んだ純愛ものだったからこそ、多くの方の共感を呼んだのだと思います。

Intimateな関係こそが恋愛には必要なんだと思っている方々がちらほら見える最近の世の中、じっくりと恋について考えてみるのもいいかもしれません。



**平成16年度(後期)学生図書委員会名簿**

学 年 学 科	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
機 械 工 学 科	林 克洋 伊東 伸哉	荻本 亜哉 都甲 紘千	村田 政幸 吉廣 俊志	二宮 祐介 横尾 晋作	山神 悠太 八坂昭太郎
電 気 電 子 工 学 科	工藤 宏幸 芦刈 大介	梅原 優志 川野 泰和	松下 容子 足立 智則	小手川裕輝 大島 洋明	深田 斉仙 牧野 義治
制 御 情 報 工 学 科	松浪 拓海 渡邊 法子	西田 隆 中里 将樹	宮崎 晋伍 重光 葵	井澤 良公 横田 有哉	若林 諒 田岡 彰子
土 木 工 学 科 (都市システム工学科)	浦竹美優紀 紀 めぐみ	久光 沙知 北川 久美	安部 恭平 入江 貴士	大鶴 政輝 松井 弘	神崎 美光 藤本 翔

委員長 副委員長

## 私のすすめたい本

## 「夏の王」ファンタジーな世界へ

O.R.メリング 著

土木工学科 5年 野村 勇吉

皆さんはO.R.メリングという作家を知っていますか？メリングさんは、アイルランド出身の作家で、今までに5冊の本が翻訳されています。1994年に「ルース・シュワルツ賞（カナダの青少年が選んだ、その年一番おもしろい本に与えられる賞なのです。皆さんご存知でしたか？）を受賞した『妖精王の月』は、私のお気に入りNo.1になっています。ですが、今回私が紹介する本はその『妖精王の月』の続編とも言える『夏の王』です。メリングさんの本には、とても神秘的な世界が広がっていて、読んだ人を引き込むなにかがあるように思えます。これは読んでいただければきっとお分かりいただけるかと思いません。前置きはこれぐらいにして、『夏の王』の紹介に移りましょうか。

『夏の王』に登場する中心人物は3人。本や言葉

を考えることが好きで想像豊かな妹のオナー、好奇心旺盛で行動的な姉のローレル、そして聖人を両親に持つ悩み多き少年イアンです。ローレルはオナーを事故で失い、それは自分のせいでもあると重く思っていました。妖精からオナーが妖精の世界と人間の世界の間に閉じこめられていると聞き、オナーを助けるために夏の王を探すことになるのです。ローレルには次々に試練が待ち受けていて、読んでいる側もハラハラドキドキものなんですよ！また、最初は毛嫌いしていたイアンとローレルとの間にもある変化が…。そしてオナーを救う旅の最後には思ってもいなかったどんでん返しが待っていて、最後の最後まで退屈しない内容の本です。自分が一緒になって作品の世界を移動しているような臨場感、印象的な事象。そして少女の真の姿…。

なるだけ多くの人に読んでもらえたら嬉しいのですが、書店などにはほとんど置いてなくて、注文の形になると思います。アイルランドやケルト、古いアイルランド（アイルランド神話etc）に興味のある方にはぜひお勧めの一品です！

## 平成16年度 校内読書感想文コンクール入選者

	クラス	氏 名	作 品 名	著 者 等
第1位	1S	足立美樹	この世で一番の奇跡	オグ・マンディーノ
第2位	3C	河野綾子	きみを守るためにぼくは夢をみる	白倉 由美
第3位	2C	高野健人	片目のオオカミ	ダニエル・ペナック
佳作	1C	下川奈穂	罪と罰	ドストエフスキー
"	2M	上尾侑也	うつくしい子ども	石田 衣良
"	2E	濱田 輔	スターガール	ジェリー・スピネッリ
"	2C	植山隆義	チーズはどこへ消えた？	スペンサー・ジョンソン
"	3M	佐藤博之	アルケミスト	パウロ・コエーリョ
"	3E	浦竹勇希寛	キリスト	山主敏子
"	3C	岡崎由起子	フォレスト・ガンブ	ウィンストン・グルーム

## 編 集 後 記

日常生活において私たちは常に新しい「風」を必要としています。何故なら、年齢に関係なく、私たちは絶えず自分自身の中に新しい「息吹（inspiration）」を吹き込むことで自分の存在を成長させているからです。読書は、そうした私たちの成長を大いに手助けしてくれます。書物を読破した後の爽快感は、まさに「息吹・風」が吹き込まれた証といえるのではないのでしょうか。

今回は、菊川先生の外国からの「風」を筆頭に、山田先生、新任の福永先生・鶴先生、それに5Sの古賀さんや5Cの野村君からの「息吹」を届けることが出来ました。改革とは外側のシステムを変える作業だけではありません。勇気をもって自分自身の中に「見知らぬ世界」を取り入れ、自分自身を少しずつ変えていく作業もまた1つの「改革」なのです。

（図書館長補佐 大木 正明）